

原発事故の被害は長期的、世界的、そして深刻 今こそ原発全廃の声を上げよう！

チェルノブイリ原発と同じ「レベル7」と評価された福島第1原発原発事故から1ヶ月以上が過ぎました。事故により飛散した放射性物質により、土壌、海水、空気などが汚染され、風評被害も相まって、野菜の出荷制限や水揚げされた魚介類に値がつかないなどの事態が発生しています。

また、4月22日からは福島第1原発の半径20km圏内が「警戒区域」に指定され、住民などの立ち入りが制限されました。そして、この立ち入り制限がいつ解除されるかは目途が立っていません。

原発事故により漏れ出した放射性物質の影響は原発周辺だけではなく、アメリカ西海岸まで届いているとマスコミが報じています。汚染された海水は、海流に乗って広がっていくことから、影響は世界的規模で進行しています。

また、風評被害は食物だけに留まらず、福島から避難してきたというだけで、いじめにあう小学生や福島ナンバーの車は落書きされたり、給油拒否されるなどの差別が報道されています。放射性物質は人の心まで蝕んでいるのです。

「原発の安全に努める」といくら言われても、原発がある限り被曝の恐怖から逃れられず、安心した暮らしはできないのです。その一方で、原発事故に伴う補償費は莫大な金額になり、それが原発の発電コストに跳ね返ります。「原発は安価なエネルギーを生み出す」というのは幻想となりました。

日本の原発は「地震の巣」の上に建設されているため、絶対に安全な原発はありません。今こそ原発に頼らない社会をつくるべきです。その上で全世界で原発全廃の道を歩むべきです。

「放射能差別」をも生み出す原発事故！
原発がある限り被曝の恐怖と共に暮らさねばならない！